

お知らせ12月6日付

ハンドメイドガラス工芸に関する工芸技術がユネスコ無形文化遺産に記載されました。

無形文化遺産政府間委員会は、ハンドメイドガラス工芸に関する知識、能力、技術がユネスコ無形文化遺産の一覧表に記載されました。フィンランドでは、無形文化遺産に関する事柄は、教育・文化省、及び申請手続きを行うフィンランド文化遺産庁が行います。

フィンランド、及び5か国共同によるユネスコ無形文化遺産一覧表への申請は、政府間委員会の審査によってボツワナで2023年12月6日に選定されました。フランスが主導した多国籍申請には、フィンランドの他にドイツ、スペイン、チェコ、ハンガリーが参加しました。フィンランドでは、17社のガラス製品関連会社が申請をサポートしました。フィンランドのガラス博物館が、フィンランド文化遺産庁と共同で申請の準備をしました。

「貴重な伝統とすべての技術者のために、ユネスコの選定をうれしく思っています。フィンランドのガラスデザインは、すでに大変有名ですが、ユネスコの選定が以前にも増して世界における伝統工芸士、及びフィンランドのガラス製品の価値を上げることになります。」とサリ・ムルタラ科学・文化大臣は、述べています。

ヨーロッパ諸国の共同申請で、希少な職人のバイタリティを守り、国際的協力の強化を目的としていました。また、目標として、手工芸品としてのガラス製品に対する消費者の価値観を上げることもあります。ガラス工芸は、ハンドメイドで、現存する無形文化遺産ですが、そこから生まれるガラス製品は、有形遺産で形成されています。

すでに20年間ユネスコ無形文化遺産としての条約

無形文化遺産保護についてのユネスコの条約から20年経った今年は、現存する遺産のテーマイヤーを祝う年です。フィンランドは、条約締約国として10年が経ちます。

人類の無形文化財一覧表には、フィンランドから[サウナの伝統](#)、[カウスティネンのフィドルのフォーク音楽](#)、多国籍からなる[北欧のクリンカボートの伝統](#)がすでに記載されています。フィンランドでは、条約の遂行責任は、フィンランド文化遺産庁にあります。教育・文化省が、ユネスコに対して条約の実施、及び監査にすいての責任があります。

無形文化遺産は、国内、及び国際的に条約の一部として一覧表に記載されています。ユネスコは、2つの無形文化遺産の一覧表、及び最適な手法の登録を更新します。ユネスコの政府間委員会の総会で140か国からの合計676件の審査中の申請が一覧表にあります。今年は、合計55件の申請を審議します。

詳細

- レーナ・マルシオ、特別エキスパート、フィンランド文化遺産庁、leena.marsio@museovirasto.fi、電話番号：+358 2953 36017
- ミルバ・マッティラ、文化関連顧問、教育・文化省、mirva.mattila@gov.fi、電話番号：+358 2953 30269
- ハンナ・マミア-ヴァルテル、博物館長、フィンランドガラス博物館、hanna.mamia-walther@riihimaki.fi
- メディア用資料 <https://museovirasto.fi/fi/medialle/lasi>